

じょうきょうじ

浄敬寺だより



新春

発行日 平成三十年一月一日 第三十号

【法語】

じせつとうらい
時節到来と云うこと。

ようじん

用心をもし、そのうえに事の出で来候うを、
こと い きそうろ

じせつとうらい

時節到来とは云うべし。

蓮如上人御一代記聞書 一〇六

【意識・解説】

時節到来ということ…縁が熟し、信心をえる、教えに目が覚めるといふ時がやってきたといふことは、日頃から仏法を聞く心を持ち、仏法に基づいた生活を重ねた上で訪れる出来事なのである。

年末に執り行ったお葬儀のこと、喪主様のお子様やお孫様にあたる若い方々が、一緒にお参りし、涙し、おときの席では会葬の方々にお礼を言いながらお酌してまわる姿にお会いしました。お内仏に向かうこと、人付き合ひの術も、亡き方が後姿で教えてくださった証です。「時節到来」といふことは、普段の積み重ねであると知らされました。

1

2017 年後半写真展

↓御伝鈔拝読



← ↑ →
年末法話会



←
歎異抄の会

有縁講

↓ →



←しまい講↓



← 柏崎大使拝命



☆巻頭法話『年頭にあたり』☆

新春のお喜びを申し上げます。「年はとりたくないが長生きはしたい。煩惱に正月休みなし」あるお寺の掲示板の文です。私達の心の核心を付いた言葉ではないでしょうか。長寿社会となり、老後の様々な問題が取り沙汰される中、私達はよく年はとりたくないものだと思いますが、年は誰にでも平等に積み重なってきます。長患いすることなくコロッと往きたいものだとはいえませんが、実際の思いは必ずしもそうばかりとはいいえないのも私達です。しかし、否応無しの人々の命の姿を思い知らされることもあります。年末には多くの年賀欠礼のはがきをいただきましたが、この度、大学時代に大変お世話になった神戸の先輩が五月十七日に亡くなったという知らせをいただきました愕然としました。私よりそれ程年が上の方でもありませんが、神戸の地震で相当の被害を受け、その後なかなか元の生活に戻れないという悩みは聞いておりましたので、心配はしておりますが、まさかこんなに早く訃報を聞くことになるうとは思いませんでした。その一日前の五月十六日には、同じく私が市役所に奉職した時に同僚であり先輩であった方が亡くなられました。京都出身の方でしたが、縁あって遠方の柏崎に勤められたということでした。私ども夫婦の結婚式では披露宴の

司会もしていただくなど、大変お世話になりました。生前、「俺が死んだら葬式出してくれ」などと酒席の冗談で言っておられました。まさかが現実となり、私が葬儀を務めさせていただきました。全く違う場所ですが、僅か一日の違いで大変縁の深かった方が浄土に還られることとなり、人の世の無常を改めて知らされたことでした。考えて見ますと、私自身もいよいよ高齢者の仲間入りということになりました。昨年から民生委員を仰せつかり、及ばずながら地域のために力になれば、などと思っておりますが、市役所からお預かりした高齢者名簿に自分の名前もあることに気づき苦笑したところです。JRも三割引で乗れますし、インフルエンザ予防接種も安く受けられるようになりました。肺炎球菌ワクチンの案内も送られてきましたし、年金も満額支給になりました。一見有り難いことと思われませんが、これらは全て自分が高齢者になったということの証しです。高齢者になるということは、今まで出来たことが段々できなくなってくるということです。こんなはずではなかったと思っても、現実には残酷です。去年できたことが今年は出来なくなる。こういう事実には思い当たることがあるのではないのでしょうか。このような現実が私達に冒頭の言葉のような葛藤を与えているようです。古来、先人たちは皆こういう悩みを抱えて人生を生き、人生を終えてきました。

例外はありません。自分だけは違うと思うのは人間の煩惱です。そう思う時、この一度限りの人生を自分の煩惱の束縛の中で苦しむのは如何なものでしょうか。親鸞聖人は「末燈鈔」の中で「この身は今歳きわまりて候えば、定めて先立ちて往生し候わんずれば、浄土にて必ず必ず待ちまいらせ候べし」とおっしゃっておられます。旅行に行つて楽しいのも、帰るべき家があるからでしょう。全ての人が還つていく世界、浄土。還つていく世界があるからこそ、今いただいているこの「いのち」を輝かせて生きていくことが出来るのではないのでしょうか。今年も皆様と共に聞法して参りたいと思います。

合掌

（住職）



☆庫裡便り（坊守）

◎九月八日、親戚寺院北条西方寺のご当院の結婚式があり、住職は司婚の大役を務めました。仏前での誓の言葉に十年前の若夫婦と二年前の娘の結婚式を思い出し胸があつくありませんか。ご門徒の方も是非莊嚴な仏前結婚式を挙げませんか。ご縁がありましたらお寺にご相談ください。



◎当院は出雲崎の良寛記念館に館長代理として勤めています。が、ギャラリートークや貞心尼展開催セレモニートーク、長野での出張展示等、活躍の場が広がっています。皆様も機会を見つけ、是非良寛記念館に足を運んでみてください。当院が展示品の説明もしてくれるかと思っています。

◎十一月五日～八日まで、三条別院お取り越し報恩講（お引き上げ）が厳修されましたが、六日には准坊守（晴香）の御伝鈔拝読がありました。別院で女性初の御伝鈔拝読ということで本人も相当の重圧だったようですが、無事大役を果たしました。私も本山御鍵役の接待、お斎準備の手伝いに出向きました。音楽法要、団体参拝にご参加くださった皆様、ありがとうございました。

◎文学座に所属する二女千晶は、イベントやテレビ出演、映画スターウォーズやオリエント急行殺人事件の吹き替え、演劇公演等忙しく活動していますが、このたび市長様より柏崎大使に任命していただきました。今後は柏崎のためにも頑張ってくれることと思います。四月には長岡での文学座地方公演に出演が予定されているようで楽しみにしています。

☆二〇一六年後半を振り返って

◎秋彼岸（お中日九月二十三日）法話 住職

「蓮如上人御一代記聞書」に「いたりてかたきは、石なり。至りてやわらかなるは、水なり。水、よく石をうがつ。」というお言葉があります。今の世界状況もそうですが、私達はややもするとお互いに石のような硬い心と心をぶつけ合い、傷付いています。どちらかが柔らかな水のような心が持てれば、やがては相手も心を和らげることが出来るはず・・・と住職より法話がありました。

毎年春分の日と秋分の日には、お彼岸の中日の法要が勤まります。十時半より法話・勤行・おとき、終了は十三時頃の予定です。ぜひお参りください。

◎『音市場』開催（十月一日）

一日フリーパス券を購入し、市内の飲食店やホール・お堂を会場を巡ることが出来る音市場。浄敬寺も会場として協力させていただいています。プロ・アマ問わず、アーティストにとって披露する場のあること、私たちにとっても身近に音楽を楽しめることは、素晴らしいことです。

この度浄敬寺で演奏してくださったのは、ワールドミュージックのミルフィユさん、クラシックピアノの小田剛志さん、アコーディオンとピアノの岩下さんの3グループでした。

◎三条別院報恩講お取り越し 団参（十一月八日）

十組の団体参拝には、浄敬寺からも沢山の方からご参加いただき、結願日中をお参りし、名和正真師の絵解き法話の拝聴しました。別院にておときをいただいた後は、恒例の寺泊の鮮魚センターを経由し帰泊しました。



報恩講期間中、坊守はお鍵役の接待やおときの手伝いと、教区の坊守会長としてのお役目も果たし、住職は内陣出仕、晴香は例年の外陣勤めに加え、御伝鈔拝読という大役をさせていただき、それぞれに学び多い法要でした。初日の音楽法要には、坊守と浄敬寺御門徒四名の方から合唱団としてご参加いただきました。ありがとうございました。

◎赤倉有縁講 団参（十一月十五・十六日）

親鸞聖人ご上陸の居多ヶ浜記念堂を参拝し、赤倉ホテルへ。法話のご講師は今泉先生で、有縁講の由来や私たち門徒にとって大切なことをお伝えいただき、心に響くご法話でした。大勢の参詣の方々と一緒に、聴聞させていただきました。翌朝の妙高は一面の銀世界。長野に向かうとお天気も回復し、恒例のりんご狩りを楽しんできました。

来年は皆さんもぜひ参加しませんか？

（坊守 記）

◎しまい講（十一月二十六日）法話・住職、御伝鈔解説・晴香

浄敬寺ではおときを準備し、法話や勤行に遇っていただく「お講」形式の行事が年に五・六回ありますが、その締め括りがしまい講です。台所のお当番の下原地区の方、多くのお参りの御門徒の皆様のお陰で無事最後のお講をお勤めする事ができました。

住職の法話に続き、十一月六日の三条別院報恩講において、御伝鈔を拝読させていただいた准坊守・晴香より、当日に当院が撮影したビデオを流しながら、御伝鈔の内容や諸作法について解説させていただきました。



◎年末法話会（十二月十日）

『御同朋・御同行のこころ』 講師 今泉 温資 氏

十二月十日の年末法話会は、いつも五月十九日の報恩講で御法話をいただいている、今泉先生からお話しいただきました。

最近、特に関東では、自分の家の宗派がどこであるのかを、言える人が少なくなっている。そのことから、葬儀の時などでトラブルが発生することもあります。そんな中で、明確に宗派を葬儀屋に伝えることができるのは大抵、ご門徒の方です。それは、ご門徒の方が真宗の教え、親鸞聖人のお念仏しなさいという教えを大切にしているからです。

親鸞聖人は、想像を絶する厳しい修行の中で、夢告により法然上人の道場に行きます。そこで見たのは、農民や公家、武士や商人など、様々な階級の人たちでした。親鸞聖人は、そこで初めて、生きた仏教を垣間見たのです。親鸞聖人は、偶発的にそのような場ができたのではなく、先には七高僧、そして阿弥陀様の願いを伝えてくれたお釈迦様が道を示してくれたお陰であることに気づかれたのでした。その阿弥陀様の願い、お念仏しなさいということに目覚め、集う者たちを御同朋・御同行といえます。私たちも、生まれた場所も時間、育った環境も全て違うもの同士がこのように一同に集まっています。違ったままで繋がって行ける存在、それが御同朋・御同行です。真宗の人は、その関係を大切にしてきたのです。

また今日のような法話会をどんどん開いて、皆で集まってお念仏のお話を聞いていきましょう。
先生は終始、大きな声でお話し下さいました。（当院記）



5

☆新コーナー お寺潜入レポート

久々に立ち上げました新コーナーは：『お寺潜入レポート』
浄敬寺の中の意外と知られていないこと（内部情報？）を准坊守・晴香目線でお知らせいたします！
今回は、よく御門徒の皆様からお声かけいただく、「お庭がきれいですね」のヒミツを大公開いたします♪



毎年花の終わった初夏の頃に、
庭師・小林義民親方の元、総勢4～5名
の方が作業に来てくださいます。

落ち葉掃きや草とりは一年を通じて、住職・坊守が頑張っており
ますが、毎年欠かせないのはプロの手による植木物のお手入れ。
鍛錬されたプロの技に見とれてしまいます。

☆二〇一七年前半の行事予定

一月一日

修正会勤行

朝六時より

一月一〜二日

年始参

＊真宗門徒の一年は、御本尊のお参りから始めましょう

一月二十日（土） 歎異抄をよむ会

午前九時〜

二月十日（土）

歎異抄をよむ会

午前九時〜

三月十七日（土）

柏刈同朋の会報恩講（産業文化会館）

午後一時三十分〜

法話 姫路医療センター小児科医師・梶原 敬一 師

三月十八〜二十四日 春彼岸

＊お中日 二十一日（春分の日）

午前十時半〜法話・勤行後・おとき

皆様からぜひ聞いていただきた
いご法話です。

四月一〜三日（日〜火）

＊浄敬寺同朋の会旅行『真宗本廟春の法要参拝』

春の法要厳修中の真宗本廟に参拝、一日目の音楽法要をお参りし、桜満開の京都を旅します。

お早めにお申し込みください。

四月十四日（土）

歎異抄をよむ会

午前九時〜

五月十八日（金）

報恩講お引き上げ 午前十時〜

法話（今泉 温資 師）

引き続き 勤行（御満座）・おとき

「報恩講」は、
真宗門徒にとつ
て最も重要な年
中行事です

＊小学校の運動会と重なることが予想される
例年より一日引き上げてお勤めします。

六月九日（土）

歎異抄をよむ会

午前九時〜

仏教文化講演会

十三時半〜

六月二十四日（日）夏の法話会

午後一時半〜

七月十四日（土）盆参会（盆内）両日とも十時半〜

十五日（日） 法話・勤行・おときがあります

八月五日（日）

夏休み子どもの集い 午後四時〜

八月十三日〜十六日 盂蘭盆会（お盆）

十三日・・・午前六時より 本堂にて勤行

定例法話会『歎異抄をよむ会』のご案内

＊日時 基本的に第二土曜日午前九時より（一月は第三）

一・二・四・六・九・十・十一月開催

＊内容 『歎異抄』の解説、正信偈のお勤め

終了後、自由参加で茶話会あり

＊持ち物 赤本 念珠 『歎異抄』の冊子

☆第二十八回 晴香の『真宗門徒のマメ知識』

今回のテーマは『御伝鈔』ってな〜に？です。

去る十一月六日、人生初の大役を仰せつかりました。
その大役とは、三条別院の広いお堂での御伝鈔拝読！
今回は『御伝鈔』について解説します。

ちょっと
解説！

☆『御伝鈔』・・・正式名『本願寺聖人伝絵』
ごでんしやう ほんがんじしやうにんでんね

親鸞聖人のひ孫で本願寺の三代目・覚如上人の著で、宗祖親鸞聖人の伝記です。
かくによしやうにん

覚如上人が記された代表的なものに『報恩講私記（式文）』があります。これは現在も、御本山や別院の登高座で読まれています。親鸞聖人三十三回忌の法要を勤修するにあたり、法要の主旨を記されたものです。そして、三十三回忌法要の一年後にこの御伝鈔の初稿を著されたと伝えられています。この時覚如上人二十六歳（お若いですね）。その後も康永二年の七十四歳頃まで推敲された為、数種類の文脈の異なる本がありますが、現在東本願寺に所蔵されている「康永本」が最終決定版だとされています。

☆いつ聞ける？

＊真宗本廟（東本願寺）では、十一月二十一〜二十八日の七昼夜の報恩講中、二十五日の十七時〜上下巻を

＊三条別院では、報恩講期間中の十一月五日の逮夜後に上巻、十一月六日の逮夜後に下巻を

＊末寺で拝読の場合は、報恩講を昼夜（二日間）に渡ってお勤めし、逮夜のお勤め後に

雨戸を全て閉め、堂内を暗くして蠟燭の明かりで拝読します。
（近年は安全対策の為もあって、やや電気も使います）



☆『御伝鈔』と『御絵伝』

元々は絵巻物になっており、上巻八段・下巻七段の2巻、または、上2巻・下2巻の計4巻から成っています。

絵巻物では、大勢の人が拝観できなかったため、後に詞と絵に分けられるようになり、その詞の巻物を『御伝鈔』、絵の掛け軸を『御絵伝』と言います。

親鸞聖人の御影
の前にて拝読

箱から巻物を出し、巻物の紐を解いているところ

御伝鈔と
卓持役2名
燭持役2名

「練り出し」

内陣より御伝鈔を
運びます

大坊主
（拝聴役）

灯りの調整の
為に、準備が
整うまで待つ

御絵伝
右から順に
下から上へ

☆さいごに

先輩方から沢山の助言をいただき、耳の底に残る師匠の声を思い出しながら稽古し、親鸞聖人のお言葉や生涯を感じながら、大役を全うさせていただきました。私の精一杯：いえいえ、それ以上ができました。脈々と受け継がれてきたお念仏、大切に伝え守られてきた尊い場の力を感しました。



4 3 2 1

― 『北枕』 ―

以前こんなことがありました。長男がクイズだといって魚の図鑑を抱えてやってきました。クイズ「フグの中で一番猛毒のフグは何でフグでしょうか?」。私は「クサフグ」と答えました。「ブツブツ」、正解は『キタマクラ（北枕）』です!」。理由は、猛毒なため、食べたらずぐ北枕（死亡）になるからだそうです。どなたか分かりませんが、銘々した人を感じしました。

人が亡くなるとご遺体の頭を北に向けて安置します。これは、お釈迦様が入滅された時に「頭北西面右脇臥」頭を北に向け、右脇を下にして顔は西を向いていたことからきています。そこから亡くなったら頭を北にする「北枕」の習慣が生まれました。それ以来、北枕は死を連想する言葉となってしまうました。

そのようなイメージのある北枕ですが、お釈迦様の最後の説法とも言われています。「頭北右脇臥」は人間の一番リラックスする格好。そして「西面」西を向くことは、常に西方極楽浄土、お浄土を願いなさい、という意味であると言われています。それは、肩肘をはらず、そのままの姿でお浄土を願いなさい、ということなのです。そして、亡くなった方の姿から、普段の私たちの生活が見返されるのです。



☆編集を終えて:

浄敬寺だよりは今号で第三十号となりました。早いもので:と言いたくはなりますが、年2回発行といえども、毎回様々な事を考え、書いては消し、目を血走らせて写真の位置を調整し、現在の形に定まるまでは長い道のりでした。その間、家族も増え、生活の形態も変化させながらの十五年間でした。ほぼ同時期にスタートした「正信偈の会」(現在は歎異抄の会)を振り返りましても、十五年前、若さゆえの熱意と勢いで始めたこと、それが熱を失うことなく、今日まで続けて来られたのは、御門徒の皆様のあたたかい励ましのお陰と、心より御礼申し上げます。

記念すべき三十号、カラーページをいつもより増やしております。お楽しみください。

(晴香)

☆メールアドレス

住職 tom814@kismet.or.jp 晴香 haru310@kismet.or.jp
当院 minipapa@kismet.or.jp

☆ブログ

『真宗大谷派浄敬寺
小僧☆はるかのかの気まぐれ日記』
http://blogs.yahoo.co.jp/haru_0310_naga

本年もよろしく
お願い申し上げます

